

テクノロジーの波とハイパーネット

数週間前、サーフィンをしにワイキキ沖まで出かける機会がありました。その波はちょうどいい温度で、かなり形が崩れているにも拘わらず、私がボードに乗って素晴らしい時間を過ごすことができるくらいには快適であるため、完璧なのです。私はいつもサーフィンの比喻にインスピレーションを受けてきました。あなたは海に出て、次の波を見つけるまで、できるだけ激しく片手をバタバタ動かしています。岸に向かって波に乗る場合、正しい波を選び、自分自身とボードをできる限りベストな状態にコントロールするのはあなたの匙加減ひとつです。しかし、あなたが立ち上がるたびに、海の全パワーがあなたの後ろにまわり込むので、そこに非常に大きくて、よりダイナミックな動きが加わります。その素晴らしいパワーが、すべての体験を可能にするのです。

テクノロジー・ビジネスの波

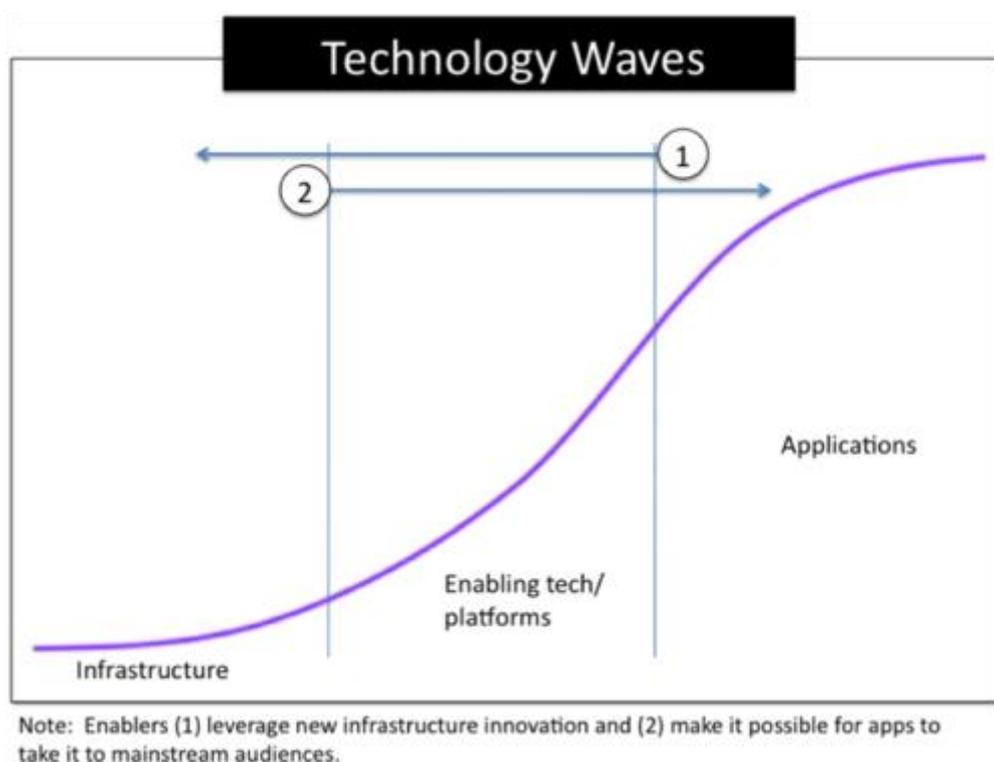
サーフィンの比喻は、私が中学時代に Apple II と IBM のオリジナル PC 向けにプログラムを書いて以降、そして後に起業家として、そして現在は投資家として、テクノロジー・ビジネスについて考えるときのフレームワークのガイド役を担ってきました。デジタルの世界では、その原動力は、重力や潮流、水そのものの力ではなく、(急速に進歩している)記憶装置や(わずかに遅い)ネットワーク接続はもちろんのこと、(18ヶ月ごとにコンピュータ性能が2倍になる)ムーアの法則のような飛躍的に増加するテクノロジー要因から生じています。これらのパワフルな力のおかげで、新しい波が常にテクノロジー・ビジネスに集まっているのです。小さすぎて面白くない波もあります。世界を変えるまったく新しい産業や企業を生み出すくらい大きな波(PC革命、クライアント/サーバー、インターネット、ソーシャル・ネットワークのような)もあります。これらの波は、テクノロジー業界を前進させる革新的な企業が常に生まれていることを保証します(余談ですが、アンと私が自分たちの投資会社を FLOODGATE と名づけることにしたのは偶然ではありません)。

テクノロジーの波:概要

私の経験では、約10年ごとに、大きな新しいテクノロジーの波が見られます。私が高校生のときに、PC革命の波がありました。私はクライアント/サーバーの波の終焉段階とインターネットの波の初期段階で起業家としてのキャリアを築きました。今日、私たちはソーシャル・ネットワークの波の大きな拡散段階にあります。私は、このようなテクノロジーの波に夢中になっており、それがどのように発展し、どのようなパターンが観察されるかを見極めるために多くの時間を費やしてきました。また、テクノロジー・ビジネスの偉大な創設者や投資家の何人かと話をして、私の考えをさらに洗練させる機会がありました。この投稿の残りの部分では、私が学んだことを説明し、これらの考えと、どうしてロジャーと私がハイパーネット/ハイパーウェブを次の素晴らしいテクノロジーの波だと信じているのか、その

理由とを結び付けることに費やそうと思います。

これらの波は、あるパターンに従う傾向があることが分かりました。いずれもインフラから始まるのです。インフラの進歩は、大きな波を寄せ集めることを可能にする予備的な力になります。この波が寄せ集まり始めると、実現可能なテクノロジーとプラットフォームが新しいタイプのアプリの基盤を作り、それによって、寄せ集まった波が広範囲の普及と顧客の利用を実現させるのです。最終的に、これらの波は、最高水位に達し、弱まってゆき、次に寄せ集まった波が形を作る下地を整えるのです(下図を参照)。



最近のソーシャル・ネットワークの波では、ブロードバンドの普及により、何 10 億人もの人々が常時接続するインフラが構築されました。次に、Facebook、Twitter、LinkedIn などの企業が提供するプラットフォームが登場し、それによって、人々が社会的に交流する様々なタイプのソーシャル・グラフと接続フレームワークが構築されました。その後、Bazaarvoice や Jive などのビジネス・ソフトウェア会社とともに、こういった基盤プラットフォームと基盤コネクションを利用した Zynga などのアプリが続きました。同様の話は、(偶然にも、半導体やディスク・ドライブなどのインフラ、DOS、PostScript、NetWare などのイネーブラー、Microsoft Office などのアプリを有することになる)PC 革命に遡れるすべての波について語るができます。

実現可能な技術の重要性

殆どのテクノロジーの波に見られるもう1つの興味深い特徴は、イネーブラー(PCにDOSを備えたMicrosoft、クライアント/サーバーにリレーショナル・データベースを備えたOracle、ソーシャル・グラフを備えたFacebook)が結果として自然な独占企業になっているということです。こういった事態は、初期インフラが構築されたまさにそのときに出現し、新しい機能を、最終的に非常に多くのユーザに使ってもらえるアプリ向けプラットフォームへと転換する方法を創造するのです。イネーブラーとは、寄せ集まった波のエネルギーを、数100万人、更には数10億人の人々に影響を与える新しいテクノロジー・セットというチャンスへと変換する特別な企業のことです。この重要なイネーブラーの役割を果たせる企業は殆どありませんが、勝った企業は非常に価値ある存在となります。これが真実である理由については多くの議論があります。そういう企業が殊の外少ないのは、技術コミュニティが、大規模な拡散、浸透、規模拡大を達成できる業界を構築するいくつかの標準プラットフォームに合意する必要があるからだ、というのが私の考えです。

起業家や投資家にとっての意味

私が気に入っているこの比喻の他の特徴の1つは、投資家や起業家に優れたフレームワークを提供することです。例えば、私が2005年に初めてシリコン・バレーに到着したとき、多くのVCは、消費者向けインターネット企業は意味がないと言っていました。ドットコム破綻は「目玉がたくさんあったって儲けにはならない」ことを証明した、というわけです。しかし、この分析で見逃されたのは、私たちは、ソーシャル・ネットワークと呼ばれる新しい波の初期段階にいた、ということでした。インターネットの波が最高水位に達し、新しい波が寄せ集まっていました。私はこのフレームワークを念頭に置いてエンジェル投資をしていたので、私の焦点はソーシャル・ネットワーク(または、当時多くの人が"Web2.0"と呼んでいたもの)のイネーブラーを見つけることでした。残念ながら、私はカリフォルニアに引っ越すのが遅すぎて、FacebookとLinkedInのエンジェル・ラウンドに投資できませんでした。私はポッドキャスティングがイネーブラーになると勘違いしてしまいましたが、幸いなことに、TwitterのインキュベーターになるOdeoというポッドキャスティング企業に投資しました。Twitterは最終的に、実現可能なテクノロジー/プラットフォーム段階での主要な勝者の1つとなりました。

2006年後半に、ソーシャル・ネットワークを実現するパワーが十分に寄せ集まり、確固たるものになったと判断し、私は、Facebook、LinkedIn、Twitterによって構築されたコネクションを活用するアプリに焦点を移し始めました。私たちが資金提供したそのような企業には、Bazaarvoice、BranchOut、Chegg、MassRelevance、Modcloth、Socialware、Spiceworksなどがあります。この間、私たちは"Facebookキラー"、"Twitterクローン"、"別セグメントのLinkedIn"といった類の企業をたくさん目にしましたが、私には実現可能段階が終わったと思えたので、そういった企業への資金提供は見送りしました。

意味のあるソーシャル・ネットワーク企業を始めるのが遅すぎる理由

今日、私たちはソーシャル・ネットワークの波の中で意味のある会社を始めるには遅すぎると思っています。このサイクルがイネーブラーからアプリに移行し始めた時期というのは、2つの理由から非常によい時期でした。第一に、その時期は十分に機が熟していたので、企業は、規模拡大をなし遂げた、或いはより大きな規模拡大を達成する可能性が高いプラットフォームのいくつかに賭けることができました。しかし、その世界地図をアプリ用に描くには、まだ早すぎる時期でもありました。これが意味しているのは、競争が少なかったため、企業ははるかに少ないお金でユーザを獲得し、よりよい収益を上げることができたということでした。これらの企業はまた、ユーザ間にネットワーク効果を構築し、特に規模拡大と販売の強さという観点から強固な参入障壁を作り上げるチャンスがありました。

ソーシャル・ネットワークのアプリ空間は現在とても混雑しています。波が最高水位に達しようとしています。ユーザを巡る競争が激化していて、その結果、新製品に対するユーザの生涯価値がますます圧迫されている一方で、ユーザを獲得するためのコストはますます増加しています。これは、テクノロジーの波がどのように進化するかという自然な一面を示しています。初期の頃は"サーファー"は殆どいません。すべての人に対して十分な余地があります。しかし、すぐに、多くの人々が同じビーチに群がり、状況は一変します。サンタ・クルーズで混雑している時間にサーフィンをしたことのある人は、イライラしたサーファアの群衆が、縄張りを主張して、「おい、俺の波から降りろ」と言っているのを目撃したことがあるでしょう。これが、今後の新しいソーシャル・ネットワークのスタートアップのありようになるのだと思います。

この点を誤って解釈する人もいるでしょう。私は、ソーシャル・ネットワークが"死んだ"とか、私たちは"バブル期"に陥ったと言っているわけではありませんし、主要なソーシャル・ネットワーク企業の現在の提供物に価値がないと言っているのでもありません。私のビジネスはスタートアップであり、将来的に意味のある大変革をなし遂げる企業を立ち上げるチャンスはあります。ソーシャル・ネットワークは確かに重要でしょう。しかし、この時点からの起業家は、それを次の素晴らしいスタートアップのチャンスではなく、"機能"と見なす必要があるのです。

ハイパーネットに入る

この時点について私がとても興奮している理由の1つは、ここ数年で、新しいインフラが主要な新しい波に向けて整備されたことです。ロジャーと私は、新しいインフラは、Web、セルラー方式、WiFiを複合し(これをハイパーネットと呼んでいます)、数10億のノードと数100万のクラウド(これをハイパーウェブと呼んでいます)を含む潜在的な新しいUXを組み合わせたものだと思います。私たちは、これらが新しく寄せ集まりつつある巨大な波の主要なパワーであると信じています。今後数年間で、一握りの起業家が、明日の優れたテクノロジー企業のいくつかを定義する実現可能なプラットフォームを構築し始めるでしょう。

また、この波は、より大規模なハードウェア・コンポーネントを含んでいるため、ソーシャル・ネットワークの波よりもはるかに大きくなると考えています。一般的に言って、ある波が同時にハードウェア・コンポーネントを含んでいるとき、更に大きな波及効果が見込まれ、その値の乗数はより強烈になるのです。

このブログで示そうとしている私の目的の一部は、実現可能なこれらのテクノロジーとプラットフォームがどのように形作られるかについて、基本的な洞察を解き明かしたスタートアップ創設者を見つけることです。

重要なポイント

- ・ テクノロジーの波は、大きな価値をもたらすチャンスのある企業を始めたいと願う起業家や、そういう企業に資金提供したいと願う投資家にとって、強力なフレームワークである。今後は、そうなる。
- ・ テクノロジーの波は、インフラから始まり、実現可能なテクノロジーへと移行し、アプリ段階の幕を開け、その波を大規模な拡散へと促す、というパターンに沿って進化する。重要なのは、波のどの段階にいるのかを認識し、現実に合わせてスタートアップまたは投資戦略のタイミングを計ることである。
- ・ 勝てるテクノロジーとプラットフォームを実現可能にすれば、自然な独占を作れる。その数は少ないが、大きな価値を生み出す。
- ・ 新しいテクノロジーの波に乗った技術を確認するものとし、大衆化させる実現可能なテクノロジーとプラットフォームの上に、アプリは構築される。勝つアプリ企業は、十分な時間を待って適切なプラットフォームに賭けるものの、将来の地図がまだ描かれていない程度に早く参入する企業である。
- ・ ソーシャル・ネットワークは現在のテクノロジーの波だが、大きなスタートアップを立ち上げるチャンスのある新しいサイクルから、ソーシャル・ネットワークが未知の領域というより"機能"となる大規模拡散段階へと移行している。
- ・ ウェイン・グレッツキーの言いまわしを借用すると、最高の起業家は"バックの向かうところに滑っていく"。ロジャーと私は、そのバックが、ハイパーネットとハイパーウェブを実現可能とするテクノロジーとプラットフォームの段階に向かっていると信じている。すでに、いくつかの起業チームがきつと、この新しいサイクルの大方の拡散を促進する実現可能な大規模テクノロジーまたはプラットフォームを構築するようなプロジェクトに取り組んでいると信じている。

ソーシャル・ネットワークがサーファーで混雑している海の一部と考えることができるなら、ハイパーネットとハイパーウェブはその反対側にあります。現在、私たちの中に、水の中で一緒になってバタバタしている人は殆どいません。私たちはこのような状況を以前に見たことがあるので、素晴らしい時間を過ごせているのです。まだ、たくさんの人に余地が

残されているので、これらのアイデアにワクワクしている方々が奮って私たちに会いに来ていただけることをお待ちしております!